



プロジェクト名称

木沢の「わ」プロジェクト

プロジェクト活動概要



地方のような都市から離れた地域（特に中山間地域）では、人口減少に伴ってさまざまな問題を抱えている。本プロジェクトの活動地・徳島県那賀町木沢地域もそのひとつで、古くから伝わる拝宮和紙などの伝統工芸や人形浄瑠璃・農村舞台などの文化、さらには木沢村に住む人々の暮らしの知恵がいま無くなるようとしている。そこで、昨年度は使われていない古民家を再生し、訪問者に木沢村を知ってもらうための資料館、訪問者と住民

が交流できるワークショップスペース等の機能を兼ね備えた拠点完成させた。さらにこの拠点づくりのプロセスの中でまちのさまざまな住民を巻き込むことで、孤立していた住民同士をつなぐコミュニティの場を創出するとともに、私たち学生との交流によって住民たちの地域活性化に向けた意識を向上させた。

今年度は私たちの目的である木沢村の活性化を実現するために、昨年度完成した拠点の活用を開始する。昨年度とは異なり、徳島周辺の大学の学生を誘致するためのイベントを企画・運営し、新たな交流人口を増やすとともに他学生団体との共同イベント開催を目指す。また、木沢村の年間スケジュールに合わせたイベントを開催することで、住民や周辺の学生などを主体とした地域活性化の取り組みを促すためのモデルケースを創出する。

プロジェクト終了後に目標とする成果・結果 / その進捗

- ① 地元のスケジュールに基づいたイベント企画によるモデルイベントの創出と住民主体による新たな取り組みの創出
- ② 中山間地域におけるコミュニティ拠点の活用とその中で得られる利用者のニーズ調査やイベント企画
- ③ 木沢村で地域活性化に取り組む新たな学生主体を 2 団体以上誘致する

11 月に行われたイベントは、前回のイベントに引き続き地元の祭りに日程を合わせて行うことで地元住民からの注目と参加を頂いた。また、イベント内容を地域の生業である「柚子狩り」を中心に構成したことで、前回以上の住民の協力を頂いたとともに、住民主導の学生誘致のためのイメージ作りとなった。前回とは異なる徳島県内の学生団体を誘致し、前回同様のヒアリングを行った。11 月訪問の際は、地元の祭りで 2 つの大学、イベント内で 1 つの学生団体と交流を行った。2 月にはこれまで誘致した学生がこれから木沢で活動を行うための意見交換や活動内容の具体化を行う予定。



11 月にはイベント第 2 回目として、11/22 に木沢地域の「八幡神社」で行われる「坂州八幡神社秋祭り」に合わせて、木沢の特産品「柚子」を活用したイベントを「四国栄養学生団体 Nuways（以下、Nuways）」を誘致して行った。Nuways は徳島大学と徳島文理大学の栄養学科生と医学科生で構成される、「食」に関する活動を行う学生団体である。私たちは木沢の郷土料理などの食文化に価値を見出し、今回食のイベントを開催するとともに、「食」というテーマに関連して Nuways の誘致を行った。



訪問期間は 11/21～27 の 7 日間。

22 日に行われた「坂州八幡神社秋祭り」には木沢の「わ」のメンバーと祭りの中で金管バンドを披露する学生が参加した。私たちは祭りの手伝いとして、準備片付けや屋台の売り子の手伝い、また地元の若い男性たちと一緒に踊りの披露を農村舞台で行った。23 日には御神輿を担ぎ、木沢の村をまわった。

11 月の訪問中には、現在ゲストハウスとして活用されている古民家をさらに使いやすくするために、地元の大工さんと一緒に移動の際に不便であった高い石垣に階段をつくった。

2 日間にかけて行った Nuways との「食」のイベントでは、地元の婦人会「杉の娘」の郷土料理教室や、柚子の収穫と搾汁のお手伝いを行い、最後には Nuways の考案した「柚子を使った新しい料理」の披露と試食会を行って、住民との交流を深めた。夜に行った Nuways との意見交換会では「木沢の料理をまとめたレシピブックをつくりたい」など食に関する学生団体である Nuways らしい意見が出た。

○活動の様子





今後の活動計画、目標、意気込みなど

今年度 2 回目となった 11 月のイベントでは、「食」という生活に密着したテーマとそれに関する活動を行っている学生を誘致したことで、イベント内でのそれぞれの自発的な動きにつながったことや、「料理」や「食事」を通じての距離の近いコミュニケーションがとれたこと、「昔ながらの郷土料理」と「学生の考えた新しい料理」に対してお互いが評価し関心を持ったことなどから、私たちの目標である「住民主体の新たな取り組みの創出」と「木沢で活動する新たな学生主体の誘致」という面で期待の持てるものであったといえる。

また、8 月に誘致した「ふるさと愛好会」においては、私たちが行った夏のイベントをきっかけに、木沢で活動することを目的とした「木沢班」が創設されたとの連絡があり、今後の活動に関して木沢の「わ」プロジェクトとミーティングを行うなど、来年度以降のふるさと愛好会の主体的な活動が期待される。

これまで木沢を知らなかった学生が木沢に関心を持ち、自発的な活動への意欲を見せているが、まだ彼らと木沢の住民間の直接的な関係づくりには至っていない。

2 月には、今年度の最後のイベントとして、これまで交流した「ふるさと愛好会」「Nuways」を改めて誘致し、木沢の住民を集めての大規模な運動会や木沢の住民宅への民泊などを予定している。

今年度誘致した徳島県の学生たちと住民間の親睦をさらに深めるとともに、私たちを含めた 3 つの学生団体が交流し、学生が木沢で積極的に活動してくための具体的な活動内容について住民を含めての意見交換などのイメージ作りを行うことで、木沢の住民の積極的な活動と活性化の実現を目指す。